

シリーズ 大学の教授法1

# 授業設計

1

# シリーズ 大学の教授法1 「授業設計」

本資料は、中島英博編著（2016）『授業設計（シリーズ大学の教授法1）』（玉川大学出版部）の内容の一部を、出版社ならびに編著者の許諾を得て、プレFDモデル研究会が要約して作成したものです。

自学用教材として、学内での研修用教材としてご活用ください。原作者のクレジット（作成元、資料タイトルなど）を表示し、かつ非営利目的であることを主な条件に、改変したり再配布したりすることができます。

本資料は、科学研究費基盤研究（B）「教学マネジメントの基盤となる大学院生向けプレFDモデルの構築に関する研究」（研究代表者：佐藤浩章、研究番号：20H01696、研究期間：2020~2024年）の助成を得て作成されました。



作成元：プレFDモデル研究会  
作成日：2021年3月31日

# シリーズ 大学の教授法1 「授業設計」

黒太字で記載された章のみが要約されています。それ以外の章については、原著をお読みください。

## 第1部 授業設計を始める前に

- 1章 授業設計の利点を理解する
- 2章 授業設計の前提を理解する

## 第2部 授業の基本を身につける

- 3章 学生の到達目標を設定する
- 4章 目標に対応した評価を行う
- 5章 授業の進行と学習活動を設計する
- 6章 シラバスを作成する
- 7章 授業設計を見直して改善する

## 第3部 様々な授業設計に対応する

- 8章 授業時間外の学習を充実させる
- 9章 教材を準備する
- 10章 意欲や態度を育成する授業を設計する
- 11章 複数教員で授業を行う

## 第4部 授業設計のための資料

- 1 目標の表現方法
- 2 初回配布用シラバスの例
- 3 英文シラバスのための資料

## 3章 学生の到達目標を設定する

到達目標の設定方法、学習成果の構造化について理解する。適切な到達目標を設定することは、教員にとっても学生にとっても重要な意味がある。

# 3章 学生の到達目標を設定する①

## 到達目標設定の意義

到達目標を明示することにより学生の学習の指針が定まり、教員も授業内容がぶれることなく、さらに進行度合いの調整も可能になる。

## 到達目標は明確かつ具体的に

必要となる到達目標は具体的に設定することで成績評価を容易にすることができる。明確にすることで学生も自己評価を行うことができ、教員とのズレも生じにくくなる。以下の3つに注意して到達目標を設定する。

1.主語を学生に



2.学生の行動の形で記載

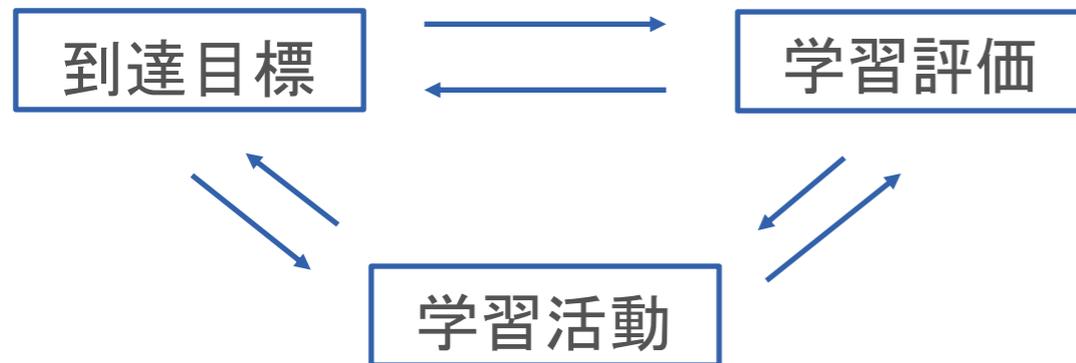


3.一つの文章で  
一つの目標を記載



# 3章 学生の到達目標を設定する②

## 到達目標を設定する



これら三つは連動するため、  
整合性を取る必要がある。

## 到達目標を分類する

高次 ↑  ↓ 低次	6	評価		
	5	統合	自然化	個性化
	4	分析	分節化	組織化
	3	応用	精密化	価値づけ
	2	理解	巧妙化	反応
	1	知識	模倣	受け入れ
		認知的領域	精神運動的領域	情意的領域

段階をふまえて学習の内容と  
順序を工夫する。

表7 ブルームの教育目標の分類

出所 梶田(2010)p.128より引用

# 3章 学生の到達目標を設定する③

## 目標間の構造の考え方 中井ほか (2003)

目標間の構造を考えるためには以下のような取り組み方がある。

1. 最終目標から逆算し、中小目標を明示していく。
2. 行動目標のリストアップを行なう。  
... 2単位の授業で20~50の行動目標をリストアップした後3~5つの大きな目標にしていく

## 行動目標の限界に注意

学生にとって機械的で表面的な目標達成が至上命題となり、深い学習につながらないなどの限界も存在する。

そのため、「理解する」や「価値を高める」といった、測定困難な目標であっても敬遠しすぎないことが必要である。

## 4章 目標に対応した評価を行う

評価の目的を確認した上で、目標に対応した成績評価の設計方法、評価のための課題設定について理解する。

# 4章 目標に対応した評価を行う①

## 評価の種類

### 1. 診断的評価

- 授業開始時
- 学習者の準備状況確認
- レベル別振り分けテストなど

### 2. 形成的評価

- 授業進行中
- 到達目標に沿った成果の確認
- クイズや小テストなど

### 3. 総括的評価

- 授業終了時
- 到達目標に到達したか確認
- 最終試験や成績判定

# 4章 目標に対応した評価を行う②

## 評価の5つの構成要素

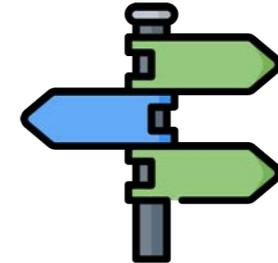
### 1. 評価主体



### 2. 評価対象



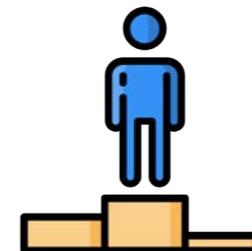
### 3. 評価目的



### 4. 評価基準



### 5. 評価方法



# 4章 目標に対応した評価を行う③

## 成績評価を設計する

目標に適した評価方法を選択することが重要である。

	知識・理解	思考・判断	技能	関心・意欲	態度
客観テスト	◎	○			
記述テスト	○	◎			
レポート	○	◎	○	○	◎
観察法	○	○	◎	◎	○
口頭(面接)	◎	◎		◎	○
質問紙法				◎	○
実演		○	◎	○	○
ポートフォリオ			○	○	○

表11 目標に対応した評価方法の選択

出所 梶田(2010)pp.164-166より作成

# 4章 目標に対応した評価を行う④

## 課題と特色について

### 筆記試験

- 過去問の有無で評価が大きく変わらないよう注意する
- 知識の定着確認にとっても有効である
- 知識の活用、応用は論述形式で問う

### レポート課題

- 事前に評価基準を示す
- 模範的なレポートを提示する
- 授業進行中に短いレポートを書き、機会を設けてフィードバックする

### グループ試験

- 学生間での教え合いを通じて、学べる
- 事前に成績評価のウェイトを決め、学生に明示する
- グループ編成が円滑になされているか確認する

# 5章 授業の進行と学習活動を設計する

授業の進行・配列と実施計画に関する知識や留意点を理解する。

# 5章 授業の進行と学習活動を設計する

## 1. 授業の進行を決める準備

### 【型を決める】

例) 習得型、探求型

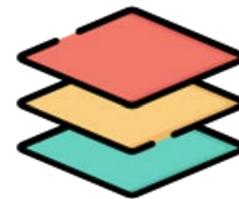
### 【重要なトピックを決める】

具体的アクション)

トピックを全て洗い出した上で最重要かつ必要性で4~7つに絞る。

## 2. 授業の進行配列

### 【階層型】



### 【らせん型】



## 3. 実施計画

### 【留意点】

- 現実的な学習量
- 振り返り機会
- 学事暦をふまえる
- ゆとりを持たせる
- 1回の授業時間を確認する

## 6章 シラバスを作成する

シラバスの役割と記述内容について理解する。特に、到達目標、成績評価、授業計画に関して記載する際の注意事項を理解する。

# 6章 シラバスを作成する①

## シラバスを用意する意義

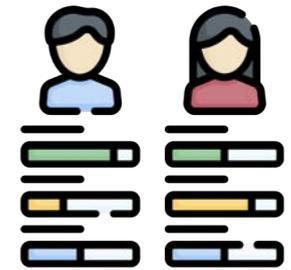
学生に期待する成果と  
教員の熱意を伝達



成績評価の詳細を伝える



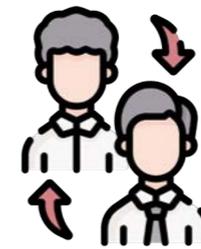
学生が自己評価  
しやすい



授業の重要な要素  
(目標, 授業設計, 学習内容)を  
学生が深く理解できる



同僚からFBを  
得やすい



# 6章 シラバスを作成する②

## 主要な記載項目と留意点

### 1. 授業目的、到達目標を記述する

- 到達目標を行動目標で記載する

目的) 学生が到達水準を把握できるため

- 到達目標が適切かの点検を行う

右図のようなチェックリストを用いる

SMARTチェックリスト		RUMBAチェックリスト	
Specific	具体的である	Real	現実的である
Measurable	測定可能である	Understandable	理解可能である
Achievable	達成可能である	Measurable	測定可能である
Relevant	関連性があり、妥当である	Behavioral	行動可能である
Time-bound	達成される期限が明白である	Achievable	達成可能である

表25 到達目標を点検する視点

出所 Barnett(1999)、Bovend'Eerd et al.(2009)を参考に作成

# 6章 シラバスを作成する③

## 主要な記載項目と留意点

### 2. 成績評価の方法と基準を記載する

- **成績評価の決定方法** Walvoord and Anderson (2010)
  1. 各評価方法の重み付けを示す
  2. 素点を積み上げる方法
- **合格基準を伝え、その基準に合わせた課題をつくる**

例) 標準的な学生が授業に参加して学習に取り組めばCが取れる
- **学習プロセスを評価する**

例) 授業ノート、ディスカッション参加度
- **ボーナスとペナルティの設定**

例) 一日遅れごとに減点、未提出学生へ代替課題の機会

# 6章 シラバスを作成する③

## 主要な記載項目と留意点

### 3. 授業計画を示す

- **学習支援を目的にする** Davis(2009)  
例) 特に重要な回を明示、内容を予告、キーワード提示
- **授業時間外の学習活動を示す**
- **学習プロセスを図式化する**



## 7章 授業設計を見直して改善する

授業設計を見直して改善するための情報収集、シラバスの見直し、授業設計について学ぶ方法について理解する。

# 7章 授業設計を見直して改善する①

## 授業開始直後に学生から集める情報

(池田ほか2001)

教師のスキルや態度



授業の内容



授業時間外の学習



学生自身の学習態度



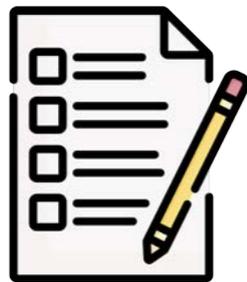
教室環境・設備



# 7章 授業設計を見直して改善する②

## 見直しのための情報収集

アンケート



学生と直接話す



参観者を招く



# 7章 授業設計を見直して改善する③

## シラバスの見直しと考え方

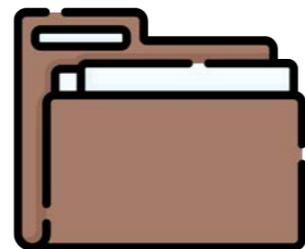
ルーブリックの活用



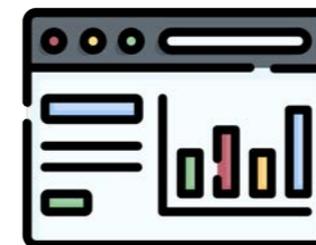
数年単位で充実させる



コースパック



ウェブサイト

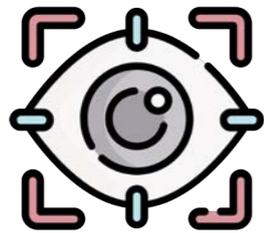


# 7章 授業設計を見直して改善する④

## 授業設計を学ぶ

シヨーン (2001)

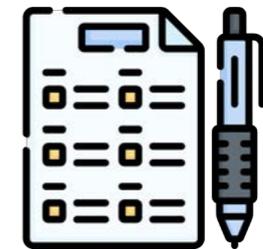
リフレクション



同僚と話す



研修参加



## 8章 授業時間外の学習を充実させる

学生の自主性に依存し過ぎず、充実した授業時間外の学習を促せるような工夫や設計について理解する。  
日本の大学生の学習時間の短さが明らかになったこともあり、政策的にも授業時間外学習の促進を求められている。

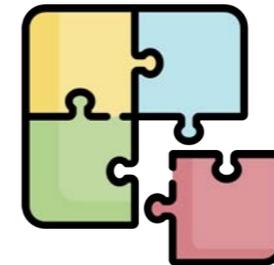
# 8章 授業時間外の学習を充実させる①

## 授業時間外学習の適切な条件

学習目標に沿っている



授業内学習とのつながり



達成可能なレベルと量



フィードバック機会



# 8章 授業時間外の学習を充実させる②

## 教授戦略をもとにした授業時間外の学習設計

### 1. 教授戦略の選択

1. 講義-読解-テスト
2. 読解-ライティング-ディスカッション
3. フィールドワーク-読解/ディスカッション
4. 講義-フィールドワーク/観察-ライティング
5. 読解-個人テスト-グループテスト-問題演習

### 2. 授業時間外の学習活動を決める

授業 時間内	講義	講義	講義	テスト
授業 時間外		読解	読解	読解

出所 フィンク2011、P.153を参考に作成

### 3. 学習課題の準備

- 学生の視点で課題を設計することが重要
- 学生が授業時間外に達成可能な量とレベルにする
- 課題遂行に必要な教材へのアクセスが学生に可能かも考慮する

# 8章 授業時間外の学習を充実させる③

## 授業時間外学習の工夫と配慮

### 授業時間外の学習課題を工夫

- 学生の課題遂行を促す工夫を設計段階から組み込む
- 学習活動の成果を可視化
- 学習活動の成果を授業時間内に活用
- フィードバックを与える

### 授業時間外設計の配慮

- 学生のスケジュールに合わせて内容と分量を決める
- 受講者の一部に課題を課す
- グループ学習への準備をする
  1. グループ分けを授業中に行う
  2. 人間関係の構築を促す
  3. メンバーの役割と責任を明確にする
  4. 学習スペースの告知をする

## 9章 教材を準備

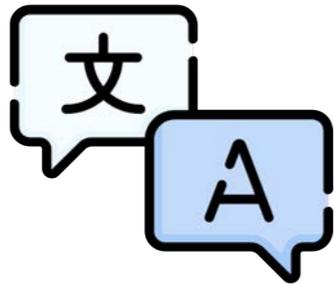
教材の種類を理解した上でどう選択・配列していくかについて理解する。優れた教材は学生の学習を促すことができるが、一方で適していない教材の選択は学生の理解を妨げることもある。

# 9章 教材の準備①

## 教材の5つの分類方法

日本教材学会編 (2013)

言語、視覚、実物教材



習得、活用教材



課題、道具、資料教材



講義用、練習用、  
実験・実習、調べ学習教材



印刷、パック、  
オンライン教材



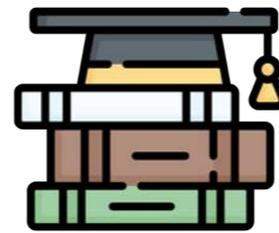
# 9章 教材の準備②

## 適切な教材を選択する3つの観点

学習目標の達成に  
役立つものである



学問分野の研究の知見に  
沿ったものである



興味や関心を  
高めるものである

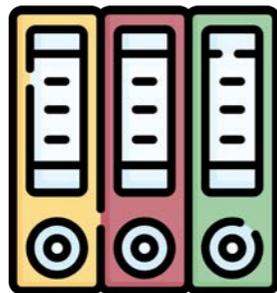


# 9章 教材の準備③

## 教科書について

### 位置付けの明確化

- 主教材か副教材か選択する
- 教科書に指定したが使わないという事態を避ける



### 教科書の選択基準

1. 候補書籍を複数冊選ぶ
2. 候補書籍から2,3章を読む
3. 重要な概念の説明方法は？
4. 図・表を確認する
5. 価格が適切か確認する

Svinicki and McKeachie (2014)

### 参考書、既存文献の活用

- 情報を多様な方法で提示し、最新の研究動向や成果も盛り込むようにする。
- 意見の偏りや多様性に配慮できていないメッセージの扱いに注意する。

# 出典一覧

- 池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹(2001)『成長するティップス先生—授業デザインのための秘訣集』玉川大学出版部
- 梶田叡一(2010)『教育評価(第2版補訂2版)』有斐閣
- ショーン,D.(佐藤学、秋田喜代美訳)(2001)『専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える』ゆみる出版
- 中井俊樹(2010)「学習成果を評価する」夏目達也、近田政博、中井俊樹、斎藤芳子『大学教員準備講座』玉川大学出版部、pp.49-62
- 中井俊樹、山里敬也、中島英博、岡田啓(2003)『eラーニングハンドブック—ステップでつくるスマートな教材』ダイテック
- 日本教材学会編(2013)『教材辞典—教材研究の理論と実践』東京堂出版
- フィンク,D.(土持ゲーリー法監訳)(2011)『学習経験をつくる大学教授法』玉川大学出版部
- Barnett,D.(1999)“The Rehabilitation Nurse as Educator,” in Smith, M.(ed.) Rehabilitation in Adult Nursing Practice,pp.53-76
- Bovend'EerdT.,Botell,R. and Wade,D.(2009)“Writing SMART Rehabilitation Goals and Achieving Goal Attainment Scaling: A Practical Guide,” Clinical Rehabilitation,23,pp.352-361
- Davis,B.(2009) Tools for Teaching, Second Edition, Jossey-Bass.
- Svinicki,M.D. and McKeachie, W.J.(2014) McKeachie’s Teaching Tips: Strategies, Research, and Theory for College and University Teachers(14<sup>th</sup> edition), Wadsworth Publishing.
- Walvoed B. and Anderson,V.(2010) Effective Grading: A Tool for Learning and Assessment, Jossey-Bass